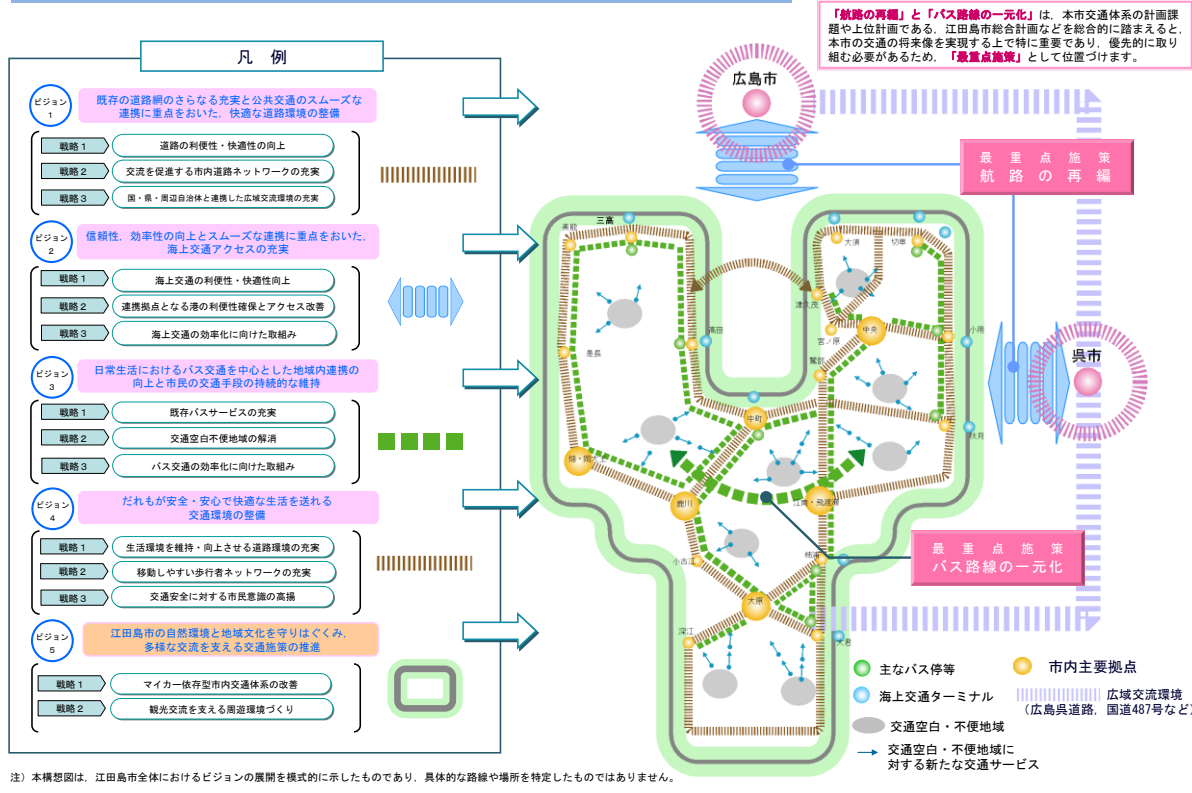


# 江田島市交通計画と地域公共交通総合連携計画との関係について

## 【江田島市交通計画】

●平成19年3月策定【計画期間：H19年度～H26年度】

### 交通ビジョンと戦略に基づく江田島市の交通の将来構想図



アクションプランの実施

## 実施事業 (H19～H21)

- 【最重点施策】
- バス事業の合理化、効率化
    - ・能美バスと呉市営バスの一元化
    - 江田島バスの設立
- 【その他施策】
- ・ホームページでの時刻情報と提供
  - ・継続的かつ適切な道路維持修繕
  - ・航路の社会実験の実施
  - ・拠点となる港の整備
  - ・ガードレール等安全施設の設置 等

## 継続課題 (H22～H26)

- 【最重点施策】
- 航路の合理化、効率化の検討
- 【重点施策】
- ・交通空白不便地域における対応
  - ・バス事業の効率化
  - ・魅力ある観光ルートの形成

## 【H21年度の取組み方向】

- 継続課題の解決に向けた検討、目標設定またその合意形成
- 課題解決に向けた施策の具体的実施計画策

## 地域公共交通総合連携計画の策定

【主旨】  
国の地域公共交通活性化再生事業を活用し、「江田島市交通計画」で示した将来構想の実現を目指すため、未着手の重点施策について、地域公共交通活性化再生協議会において、協議・検討・合意形成を行い、その実現に向けた具体的な目標を設定し、個別施策の実実施計画として地域公共交通総合連携計画を策定する

【計画期間】  
平成22年度～平成26年度

【協議会構成員（想定）】  
国、県、市、地域住民代表、交通事業者、道路管理者、公安委員会 等

## 施策の展開

### 重点施策案

- ◎航路の合理化、効率化の検討
- 交通空白不便地域における対応
- バス事業の効率化
- 魅力ある観光ルートの形成

### 目標設定案

- ◎西能美島航路の再編
- 乗合タクシー、デマンドタクシー等の導入（地域住民自主運行含む）
- 運行の効率化による運行費補助の削減
- 市内周遊を可能とした観光ルートの確立

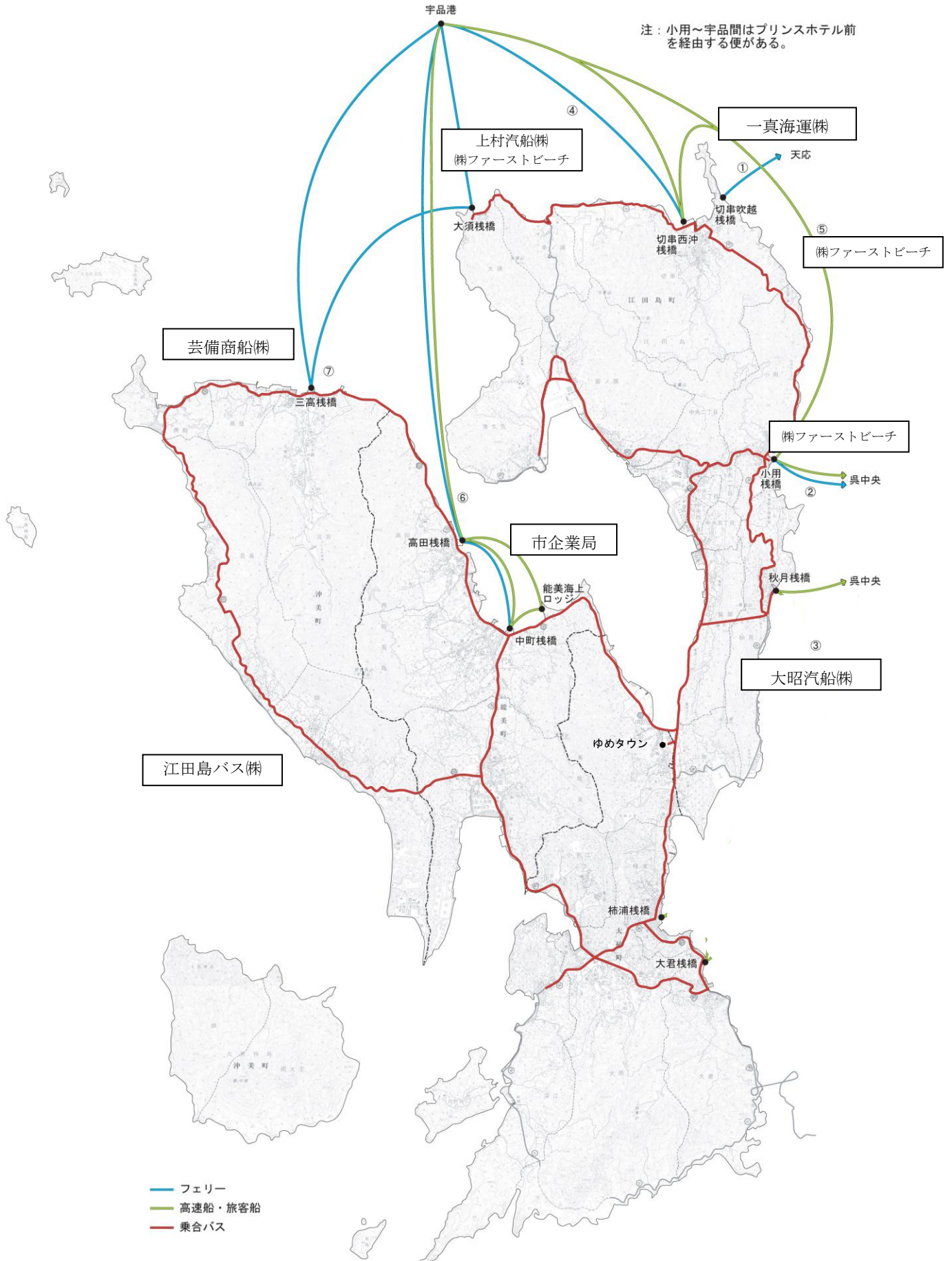
### 具体的施策案（主なもの）

- ・役割分担、共通定期の導入
- ・様々なケースに合わせた実験運行
- ・地域ワーキングの実施
- ・様々なモードの実験運行
- ・系統ごとの利用状況把握調査、分析
- ・効率的な運行経路、ダイヤの設定
- ・市内観光施設の実態調査
- ・効率的、効果的なルートの実験運行

期待できる効果

- 公共交通の低料金化の実現による利用者の増加  
効率的な交通体系による、交通事業者の経営健全化が低料金化につながり、利用者負担の軽減による、利用者数の増加が見込まれる
- 市民の利便性の向上による外出機会の増加  
公共交通利便性の向上により、今まで容易に公共交通を利用できなかった市民の外出頻度の増加に伴い、公共交通利用者の増加が見込まれる
- 利用しやすい公共交通による市外利用者の増加  
誰でも気軽に容易に利用できる公共交通の確立により、市民はもとより市外の方の利用増加が見込まれ、交流人口の増加が見込まれる

# 江田島市交通路線図



## 1 当該地域の公共交通の概況・問題点

### 【概況】

江田島市は、広島県南西部の広島海に浮かぶ、江田島、能美島とその周辺に点在する島々で構成されている。市の面積は100.97平方km。平成17年国勢調査人口は29,939人、人口に占める65歳以上の割合が31.7%と高く、少子化、高齢化の進行により、全域が過疎地域に指定されている。

市内の陸上交通については、第3セクターの江田島バス株式会社の路線バスが、市内の幹線道路を運行している。

また、海上交通については、隣接する広島市や呉市が生活圏であること等から、江田島市と広島市又は呉市の間を、民間5社と市企業局がフェリーや高速船を運航し、多くの市民が、通勤、通学、通院などの目的で利用し、本市の必要不可欠な公共交通機関となっている。

### 【問題点】

陸上交通のバス路線については、平成20年4月以前は、市内の東側と西側を2つの会社が分かれて運行していたが、現在は、第3セクターの江田島バス株式会社に一元化され、東西地域の接続性の向上、バリアフリー車両の導入、スクールバスの路線化や大型ショッピングセンターへほぼ全便が乗り入れるなど、利用者の利便性が向上されたものの、各桟橋間の接続が増えたことや小中学校の始業時間に合わせたダイヤ編成により、船便との接続の悪い便があり、改善が望まれている。

海上交通については、少子高齢化や人口流出による利用者の減少や、16年度頃から続いた異常な燃料費の高騰などにより、減便や乗船料の値上げ、航路の廃止などが頻繁に行われた。これらに加えて、航路と併走する呉広島自動車道のETC利用料金の大幅な値下げが実施されたことにより、更に利用者が減少し、今後、航路廃止や減便の動きが出てくることにより、人口流出を加速させることはもとより、地域住民の最低限の生活を営む権利を損なう恐れも出ている。

## 2 地域公共交通総合連携計画策定調査の必要性

江田島市は、平成16年11月1日に、旧江田島町、旧能美町、旧沖美町、旧大柿町の4町が合併して誕生し、平成18年度に、市内全域の交通体系整備を図るため、現状分析の結果やそこから導かれた問題点なども含めて整理し、本市の交通の将来像とその実現のため、「江田島市交通計画」を策定した。計画の目標期間を、平成19年度から平成26年度までの概ね10年間と定め、「道路」「海上交通」「バス交通」「歩行者環境」及び「総合的な将来のまちづくり」の5つのビジョンを柱に、最重点施策として「バス路線の一元化」と「航路の再編」に取り組んできた。

「江田島市交通計画」のアクションプラン短期施策が、21年度で終わることにより、その評価や継続課題に対する解決策の具体化、また、その実施を目的とした「総合事業計画」を策定し、次年度以降それに基づく事業を実施し、「江田島市交通計画」で掲げた交通ビジョンの実施に向けての取組みを推進する必要がある。

そのため、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律（平成19年法律第59号）に基づく、江田島市公共交通協議会（仮称）を設置し、「航路の合理化、効率化の検討」「交通空白不便地域における対応」「バス事業の効率化」「魅力ある観光ルートの形成」などの継続課題の解決に向けた検討や具体的な実施案等を盛り込んだ地域公共交通総合連携計画を策定する。